

大 会 宣 言

日本医労連は、2013年7月24日～26日までの3日間、静岡県熱海市において第63回定期大会を開催し、7全国組合、47都道府県医労連から代議員184人、傍聴62人、役員など合わせて309人が参加しました。5年連続で組織の増勢を達成して迎えた今大会では、文書発言を含む69人の発言によって方針を補強し、産別運動のさらなる前進に向けて決意を固めました。

大会直前に行われた参議院選挙では与党が過半数の議席を獲得し、国会内で改憲勢力が多数を占めるなど、憲法改悪への動きがさらに強まる危険な情勢となっています。TPP参加、原発再稼働、消費税増税など安定多数を背景に安倍自公政権の暴走が加速しはじめています。しかし、それはいのちとくらしを守る政治への転換を求める国民の願いとの矛盾が激化せざるを得ません。私たち労働組合と国民の共同したたたかいがますます重要になっています。

大会討論では、いのちまもる地域キャラバン行動や労働者の権利を守るたたかい、仲間を増やす取り組みなど産別に結集した奮闘で成果を勝ち取った教訓が熱く語られました。

増員・夜勤改善の課題では、2交替制夜勤を導入する動きに対して学習や職場討議を重ねて撤回させた取り組み、地域や他の産業にも意義を訴えて取り組んだ署名活動、看護現場の労働実態を携えて懇談し自治体を動かした経験など、職場の要求に依拠した地道で粘り強い活動が数々報告されました。また、看護師の「特定行為」の問題では現場を置き去りにしてすすめられている実態が報告され、早急に運動を強める必要性が浮き彫りになりました。

賃金・労働条件改善の課題では、産別統一闘争を強化し、ベア獲得にこだわり「しつこく」たたかった13春闘、介護分野や非正規の仲間の処遇改善など誇りを持って働き続けられる職場づくりをめざして取り組んだ報告が次々と出されました。一方で、労働安全衛生活動や公務員賃金の切り下げに対するたたかいでは、さらに運動を強化する必要性が強調されました。

東日本大震災と福島原発事故から2年4ヶ月、遅々として復興はすすんでいません。被災地からは住民の心に寄り添わない政府・東電への怒りが広がっている実態が報告されました。憲法に基づいた一日も早い復興の実現をめざし、産別として運動を強めることが確認されました。そして、社会保険病院や自治体病院など公的病院の存続・拡充を求め地域医療を守るたたかい、生活保護改悪反対など医療・社会保障闘争の重要性が語られました。

組織拡大・強化の課題では、要求実現のため労働組合を結成した経験をはじめ、医労連共済の活用や様々な工夫を凝らし連続増勢を実現した取り組み、医療・介護を重点分野とした全労連提起の「総がかり作戦」の実践など、多くの貴重な経験が報告されました。また、要求と一致した企画で楽しく元気が出る青年・女性の活動も生き生きと報告されました。働く者の尊厳を踏みにじる不当な攻撃に対し果敢にたたかう報告が多く出され、産別として支える決意を確認しました。

この8月、憲法の理念を投げ捨てた社会保障制度改革推進法の具体的なメニューが示されます。社会保障をまもり、医療・介護崩壊を阻止するためにも、私たち日本医労連の役割は極めて重要です。安全・安心の医療・介護・福祉の実現と、雇用とくらしが守られる社会を築くために、そして20万医労連を早期に達成するため全力をあげましょう。目前に迫るアクトインサマーin広島を全国の仲間の連帯で成功させましょう。

以上、宣言します。

2013年7月26日

日本医療労働組合連合会 第63回定期大会